

野菜

実況…(27年10月20日現在)

1 施設野菜

果菜類

(1) トマト

福井地区は4～6段果房を、坂井、若狭地区では4～5果房を収穫中である。

うどんこ病が中発、灰色かび病が少～一部多発、葉かび病が少～中発、アザミウマ類が少発、コナジラミ類、トマトサビダニが少～中発である。

(2) ミディトマト

奥越、南越地区（池田町）の夏秋どりは、10月末で終了の見込みである。県内の抑制栽培は、7～9段を収穫中で終盤になっている。南越地区では、7月下旬定植が4～5段果房を収穫中である。

灰色かび病、うどんこ病が少発、葉かび病が少～中発、アザミウマ類、トマトサビダニが少発、コナジラミ類が少～中発である。

若狭地区の促成長期どりでは、10～11段果房が開花中で5～6段果房を収穫中である。

草勢は回復し、果実肥大も良好である。

うどんこ病、コナジラミ類が微～少発、トマトサビダニが少発である。

(3) アールスメロン

坂井北部丘陵地は10月16日で終了した。三里浜砂丘地では10月末で終了見込みとなっている。玉の大きさは、坂井北部丘陵地で3L～2L中心、三里浜砂丘地では3L中心で肥大、ネットの盛り上がりは良好であった。

うどんこ病が中発、べと病が局中発、ハダニ類、アブラムシ類が微発である。

(4) キュウリ

県内の産地は、7月定植が順次収穫終盤となり、8月定植で収穫盛期になっている。

褐斑病、べと病、うどんこ病が中発、コナジラミ類、アブラムシ類が少発である。

(5) イチゴ（高設）

県内各地区とも定植後の生育は順調である。定植の早いところでは第1果房が出蕾始めから開花となり、一部で果実が肥大中となっている。

うどんこ病が少発、ハダニ類が少～局中発、アブラムシ類が微発である。

(6) スイカ

坂井北部丘陵地の小玉スイカは10月初旬で終了した。

葉根菜類

(1) 軟弱野菜

福井地区のハウレンソウは、9月下旬播種を約30～35日前後で収穫中である。株張りは良好である。ハウレンソウケナガコナダニが微発である。

(2) ネギ

坂井北部丘陵地は、6月下旬定植(スイカ後)が地上部草丈50～65cm、葉鞘径が17～22mmの生育となっている。

シロイチモジヨトウが多発、ハモグリバエ類が中発である。

2 露地野菜

果菜類

(1) ピーマン

福井、丹生地区は、10月下旬まで収穫の予定である。

アブラムシ類、斑点細菌病が微発である。

(2) ナス

奥越地区は、気温の低下とともに収穫量は減少しており収穫終盤となっている。11月上旬頃まで収穫の予定である。

褐色円星病、うどんこ病が少～中発、タバコガが少発である。

葉菜類

(1) ネギ

県内の水田平坦部は、4月定植が10月中旬から収穫開始で順次収穫されている。5月定植が地上部草丈78～103cm、葉鞘径が20～28mmで一部収穫開始となっている。6月定植で地上部草丈65～90cm、葉鞘径が15～25mmとなっている。

さび病が少～中発、葉枯病、黒斑病が微～一部多発、ネギコガが微発、アザミウマ類、ハモグリバエ類、ヨトウムシ類が微～少発である。

奥越地区の越冬春どりは、地上部草丈55～65cm、葉鞘径が13～15mmになっており平年並みの生育状況である。福井地区では、地上部草丈60cm、葉鞘径が12～18mmになっている。さび病、黒斑病、アザミウマ類が少発、ハモグリバエ類が少～中発である。

(2) ブロッコリー

秋冬どりは、南越地区で7月下旬定植が10月上旬から収穫開始となっており、順次出荷中である。福井、若狭地区では8月上～中旬定植が収穫中となっている。9月上旬定植が、本葉5～9枚となっている。

黒腐病が少発、オオタバコガが微発、アオムシが中発、ヨトウムシ類が少発、ハスモンヨトウムシが局中発である。

(3) キャベツ

坂井北部丘陵地は7月13日定植が9月24日から収穫開始され、順次収穫が行われている。県内の水田地帯では、7月下旬定植が早いもので10月2日から一部収穫開始され、10月中旬からは県内一円で収穫が行われている。収穫開始は、昨年に比べ1週間程度早くなっている。アオムシ微～少発、ヨトウムシ類、タマナギンウワバが微発、オオタバコガが一部中発である。

(4) 勝山水菜

9月20日頃から播種開始され、現在葉数5～6枚となっており間引き・補植作業中となっている。

根菜類

(1) ダイコン

三里浜砂丘地は10月11日から、坂井北部丘陵地では10月13日頃から出荷開始となっており、順次収穫中である。

コナガが微発、キスジノミハムシが少発である。

(2) サトイモ

奥越地区は、10月15日（昨年12日）から出荷開始となっている。昨年同様3L、2Lが少なくやや小ぶりだが平年並みの収穫量を見込んでいる。

(3) カンショ

あわら市は順次収穫されており、11月上旬まで続く予定である。イモの肥大は良好である。丹生地区では10月21日で収穫終了した。

(4) ニンジン

坂井北部丘陵地は、7月上旬播種が10月10日から、7月下旬播種が10月20日から収穫開始となっており、平年より肥大は良好で7～10日生育が早まっている。三里浜砂丘地では、8月下旬播種が早いもので50～60g/1本となっている。本格的な収穫は11月初旬頃になる見込みである。

黒葉枯病、キアゲハ、ヨトウムシ類が少発である。

(5) タマネギ

永平寺町は、苗の生育が早く早いところで10月25日から定植開始の予定である。

坂井地区では、10月19日から定植開始された。

(6) アスパラガス

福井地区は、27年定植が立茎5～8本、草丈100～120cm、26年定植が立茎6～12本、草丈150～160cm、となっている。

(7) ニンニク

永平寺町は10月5～19日にかけて例年どおり定植が行われた。

(8) ラッキョウ

3年子栽培の定植作業は終了した。芽立ちや年内生育は良好である。開花もやや早めとなっている。ハモグリバエが微発である。

(9) ショウガ

福井地区は、9月25日から収穫開始で順次収穫中である。

対策

11月に入ると気温の低下が日々大きくなっていく。月平均気温を見ても、上旬では最高気温18℃、最低気温9℃が、下旬では最高気温13℃、最低気温5℃とハウス内では暖房が必要な温度になっていく。暖房器具などの点検を早めに行っておく。また、時として寒気による霜や降雪による被害が発生することもあり、日々の気象の変化に留意しながら、適切な肥培管理や収穫作業を実施することで生育遅延や収穫遅れによる品質低下の発生防止に努める。また、越冬野菜

については、再度圃場の排水対策等を徹底するとともに適期定植を基本に越冬前の生育確保に努める。

1 施設野菜

果菜類

(1) トマト・ミディトマト

温度低下による果実着色の遅延や裂果を防ぐため、内張りカーテを設置して保温を行う。暖房機設置ハウスでは最低気温10℃以上の確保を目安に暖房を開始する。また、ハウス内湿度は60～80%で管理する。特に夜～朝にかけての多湿は裂果を誘発するので注意する。

(2) 軟弱野菜

ハウレンソウ、コマツナ等を11月に播種する場合は、低温期で生育期間が長くなることからハウスの保温を行う。また、べと病等の発生予防のため抵抗性品種を用いるとともに、厚まきやかん水を控えて過湿にならないようにする。コカブは低温期になると葉が伸びにくく、荷姿を悪くするので、内張りカーテンを設置してハウスの保温に努める。

(3) イチゴ

ハウス内温度が12℃を下回る頃からカーテン等による保温と暖房による加温を開始し、夜温の確保に努める。また、老化葉はうどんこ病やハダニ等の発生源となるため適宜摘葉する。なお、病害虫の発生防止のため早期の予防散布に努める。

(4) 収穫後の圃場管理

ア 収穫終了後、病害虫を次年度に持ち越さないよう罹病株等の残渣を圃場外へ持ち出すとともに、圃場清掃に努める。また抜根時に根部の病虫害等の有無を確認し必要に応じて対策を講じる。

イ 収穫終了後、土壌診断により残肥量や肥料バランスを確認し、次作の施肥管理の参考とする。また、堆肥等の有機物を施用して土作りを行う。

ウ 使用済みの資材は消毒して収納し、次年度の病害発生の原因にならないようにする。また、作付けの終了したハウスは速やかにビニールを外す。

2 露地野菜

果菜類・豆類

(1) 一寸ソラマメ

無マルチ栽培では11月下旬～12月上旬に追肥を行う。また、不織布等をトンネル被覆して株を保護する。なお、排水溝を整備して湿害を防ぐ。

葉菜類

(1) キャベツ

秋まきキャベツは、11月上～中旬に温暖な日を選んで定植する。なお、定植が遅れると地温が低下して活着が悪くなり、越冬率が低下するので注意する。越冬前に、必要葉数を確保する。

根菜類

(1) タマネギ

1 1月上旬までに植付けるが、植付け当日にできるだけ根を切らないように採苗し、根を乾かさないうにして苗の大きさを揃えて植付ける。

(2) ラッキョウ

白色疫病の発生期となり、特に植付時期の遅いものや、過湿になりやすい圃場では発病しやすいため、防除薬剤による予防散布を行う。

施設園芸省エネルギー対策

農林水産省の「施設園芸省エネルギー生産管理マニュアル」を活用して、省エネ生産に努める。また、チェックシートを実践する。

～農林水産省HPより抜粋～

1 暖房機の点検・清掃

(1) 暖房装置のメンテナンス

施設園芸において必要不可欠な暖房装置ですが、当然機械であるため経年劣化による暖房効率の低下や故障などのトラブルの発生は止むを得ないものであります。それらを最小限に抑え長期間使用するためには、定期的な点検や清掃が欠かせません。

このため、最低でも1年に1回は暖房装置の点検・清掃を実施し、暖房装置の加温能力を最大限に引き出すとともに、省エネルギー対策に努めましょう。

2 適切な温度管理の準備

(1) 施設園芸作物の適温管理

作物には、品目毎、品種毎、生育ステージ毎に成育適温と言われる最も良好な生育を示す温度域があります。このため、作物の生育適温を無視した過度の省エネルギー対策により、作物の生育不良や生産物の品質低下、収量減を招いては意味がありませんので、まずはじめに栽培している作物の生育適温の確認を行いましょう。

① 野菜の種類別生育適温

表1 作物別生育適温ならびに限界温度（℃）（高橋）

作物	昼気温		夜気温		地温			
	最高限界	適温	適温	最低限界	最高限界	適温	最低限界	
ナ	トマト	35	25～20	13～8	5	25	18～15	13
ス	ナス	35	28～23	18～13	10	25	20～18	13
科	ピーマン	35	30～25	20～15	12	25	20～18	13
ウ	キュウリ	35	28～23	15～10	8	25	20～18	13
リ	温室メロン	35	30～25	23～18	15	25	20～18	13
科	スイカ	35	28～23	18～13	10	25	20～18	13
	カボチャ	35	25～20	15～10	8	25	18～15	13
	イチゴ	30	23～18	10～5	3	25	18～15	13

(2) 天敵資材や花粉媒介昆虫の活動適温

近年の施設園芸において省力化や品質向上に大きな役割を果たしている天敵資材や花粉媒介昆虫にも活動適温があります。天敵資材・花粉媒介昆虫の種類ごとに活動適温が異なりますので、使用する際は必ず事前に活動適温を確認しましょう。

(3) 暖房装置の温度センサーの点検

暖房装置は、設定された暖房温度になるよう自動運転しますが、温度センサーが感知する温度が暖房の開始・停止を決定することとなりますので温度センサーが正常に作動しているか必ず確認しましょう。また、温度センサーの設置位置は、作物の生育にとって重要である成長点付近などの適切な高さに設置しましょう。

3 温室の保温性の確保

(1) 採光条件の点検

採光性を向上させると温室内の気温・地温上昇をもたらし、省エネルギー化につながります。

- ① 温室内の採光性を確保するため、外部被覆資材に汚れ等が付着していないか確認しましょう。
- ② 温室内外に採光を妨げるような資材や機材がないか確認しましょう。当面必

(2) 温室の外張被覆の点検

- ① 温室の外張被覆の隙間や破れの点検
- ② 天窓や側窓、入口の破損や隙間の点検
- ③ 被覆資材留具の緩みの点検
- ④ 換気扇のシャッターの隙間への冬期夜間の目張り

(3) 温室の内張カーテンの点検

- ① 温室内に内張カーテンを展張することで温室内の保温効果は一層高まります。
- ② 内張カーテンの保温効果を最大限に発揮させるには、カーテンの破れやつなぎ目、カーテンの裾部に隙間ができないよう十分に注意する必要があります。
- ③ パイプハウスの外張被覆に2枚のフィルムを重ね、その間にブロワで空気を吹き込んで断熱層（空気膜）とした空気膜ハウスについても、内張カーテンと同等以上の省エネルギー効果が見込めます。

(4) 温室内の温度ムラの点検

① 送風ダクトの適切な設置

温風ダクトを適切に設置して温室内の温度ムラを極力なくしましょう。

② 循環扇（攪拌扇）の設置

温室内の温度や湿度の分布ムラをなくし効率的な暖房が可能となります。また、植物表面の乾燥を促し結露が発生しにくくなるため、病害の発生を抑制する効果も期待できます。

4 施設園芸省エネルギー生産管理チェック項目

作業区分	加温シーズン終了後又は加温シーズン前
暖房機の点検	<input type="checkbox"/> 暖房機の熱交換面（缶体）の清掃をしましたか。 <input type="checkbox"/> バーナーノズル周辺（ディフューザー周辺）の清掃をしましたか。 <input type="checkbox"/> 定期的なバーナーノズルの交換をしましたか。 <input type="checkbox"/> エアーシャッターで空気量の調整をしましたか。

作業区分	加温シーズン入りしてから
適温管理のための点検	<input type="checkbox"/> 暖房装置の設定温度と実際の温度にずれがないか確認しましたか。 <input type="checkbox"/> 作物の適温を確認して温度設定しましたか。 <input type="checkbox"/> 暖房装置の温度センサーは、適正な位置に設置されていますか。 <input type="checkbox"/> ハウス内に温度ムラはありませんか。 <input type="checkbox"/> 変温管理を行っていますか。 <input type="checkbox"/> 送風ダクトが適切な本数や配置になっていますか。 <input type="checkbox"/> 天敵資材や花粉媒介昆虫の活動適温を確認しましたか。

作業区分	加温シーズン中
保温管理のための点検	<input type="checkbox"/> 被覆資材は汚れていませんか。 <input type="checkbox"/> 外張被覆資材及び天窓、側窓、施設の入口に破れや隙間はありませんか。 <input type="checkbox"/> 被覆資材留具に緩みはないですか。 <input type="checkbox"/> 温室内外に採光を妨げるようなものを置いていませんか。 <input type="checkbox"/> 内張カーテンに破れはありませんか。 <input type="checkbox"/> 内張カーテンのつなぎ目、軒部カーテンのつなぎ目に隙間はありませんか。 <input type="checkbox"/> 内張カーテンのすそ部に隙間はありませんか。（特に夜間、暖房装置の稼働時） <input type="checkbox"/> 内張カーテンの開閉は、日長（日の出・日の入り時刻）に応じて調節していますか。 <input type="checkbox"/> 内張カーテンを設置していますか。 <input type="checkbox"/> 内張カーテンは多層化していますか。 <input type="checkbox"/> 換気扇のシャッター隙間に目張をしていますか。 <input type="checkbox"/> マルチを利用していますか。